



企 業

愛知製鋼株式会社

つなぐ・つながる・大きく広がる 愛知製鋼の生物多様性保全活動

活動期間 2006 年～

活動場所 中新田緑地（東海市東海町） 等

web <https://www.aichi-steel.co.jp>

ポイント

企業活動と整備したビオトープを活用した環境教育などの社会貢献活動が両立されています。

自社内の活動だけでなく、植樹やビオトープ造成などを通じて、知多半島や愛知県、企業連合体、学生や市民団体などあらゆる団体とも協働し、中心的な役割を果たしています。

背景・経緯

2005 年の愛知万博開催による環境保護への機運向上を受け、2006 年から NPO 法人などと連携し、森林整備活動を開始しました。また、2010 年の COP10 開催を受け、2011 年に知多半島生態系ネットワーク協議会に入会し、その取組の一環である「企業の森 命をつなぐ PROJECT」の活動にも参画しました。

2013 年には自社緑地（中新田緑地）の整備活動を開始し、その過程では各種団体と連携した取組を行ってきました。2015 年より「オールトヨタ自然共生ワーキンググループ～オールトヨタグリーンウェーブプロジェクト～」に参画し、2018 年には「美浜町竹林整備事業化協議会（モリビトの会）」、2019 年には「東浦自然環境学習の森 保全・育成の会」との連携活動も開始し、自社活動だけでなく地域やグループ会社など一体となって取組を行っています。

目的

当社は生物多様性の重要性を認識した上で、地域・社会の持続的な発展を目指し、企業活動や社会貢献活動と同時に、生物多様性の保全活動に積極的に取り組んでいます。また、活動に際しては、自社内の活動のみではなく、地域の方々や行政・NPO・企業などとの連携を図り、オール知多半島・オール愛知・オールジャパン、そして世界へつながる活動展開を目的に活動しています。

取組内容

2005 年に東海市東海町の当地 22,000㎡を取得し、2012 年から知多半島を代表する自然生態圏を目指し、生物多様性の整備を開始しました。活動としては、毎年の植樹、「水辺のビオトープ」、「いきものマウンド」の整備などです。植樹は「どんぐりの樹」などを中心に、多様な種類の樹木 2,000 本を従業員、家族、地域の方々と植えました。

定例イベントの開催では、従業員・家族向けに自然環境について学べるイベントを毎年開催しています。そのテーマとして、①生物多様性についての学習会・生物観察会、②植樹・植樹した樹木の育成（除草など）、③苗木づくり（地域種のどんぐりを拾



東浦自然環境学習の森との連携

森林	里山	河川	湖沼	湿地
海岸	公園	農地	野生生物の保護	外来種対策
ふれあい活動の場の整備	生物多様性に配慮した製品	地産地消	環境教育・普及啓発	地域貢献
協働	その他：			

い苗木づくり)、④在来種のメダカの放流、⑤自然に親しむ催事として、春の七草の苗植え体験や小麦植え体験（冬の水田活用）、ネイチャークラフト、⑥他社の先進事例見学会などを行っています。

社会貢献事業として、業務扱いで行っていた会社近隣の道路の清掃活動に、中新田緑地の整備活動を追加し、自然に興味の薄いメンバーや、「中新田緑地」を訪れたことのない多くのメンバーに参加してもらい、生物多様性保全へのキッカケ作りの場としています。



中新田緑地自然共生イベント

地域向けイベントとして、2012年から年1回ほど、企業緑地の見学会や環境学習イベントを開催し、当社の中新田緑地を開放して地域子ども達と家族が学べる場を提供しています。また、学生との連携活動では、「命をつなぐPROJECT 学生実行委員会」と連携し、知多半島地域の緑地での整備活動を毎年計画的に行っています。その過程では、連携して年間活動計画の作成を行い、年に4回の生物モニタリング調査なども行っています。

当社の連携活動は、さまざまな団体と協力して行っています。愛知製鋼㈱の自然共生ボランティア団体「もりもりサポーターズ」、絶滅危惧種の「コアジサシ」の営巣地確保に関する連携活動として「日本野鳥の会 愛知県支部」、同じ知多グリーンベルト内の企業同士で希少種の保全について協力しあうことで、知多の緑地をともに保全しています。

今後の展望

今後も、知多半島でさらなる連携をすすめ、自然共生活動を知多半島からオール愛知、そして日本・世界につながる活動へと推進していきます。また、オールトヨタでの連携活動も展開していきます。

ベストプラクティス
受賞団体コメント



名桐悟さん

愛知製鋼株式会社

愛知製鋼株式会社では「つなぐ・つながる・大きく広がる」を合言葉に、これまで多くの団体様と連携させて頂き、生物多様性の保全活動を行って参りました。

これからも自社緑地の充実のみならず、従業員・家族をはじめ、地域の方々や各種団体との連携を図り、オール知多半島・オール愛知・オールジャパン、そして世界へつながる自然共生活動の展開を目指して参ります。

株式会社加藤建設

エコミーティング ～建設業から見た生物多様性保全～

活動期間 2009 年～

活動場所 県内はじめ、全国の工事現場

web <http://www.kato-kensetu.co.jp/eco.html>

県内はじめ、全国の工事現場



ポイント

環境保全を会社の責務として捉え、ビオトープ管理士の資格取得を会社全体で推進しています。

工事を進める上で、社員全体によるエコミーティングを通じて、環境に配慮した取組に力を入れています。

背景・経緯

当社は、道路、河川、公園等の公共工事を中心に、地域に根差した社会基盤整備事業を営んでいます。建設業というと、生物多様性保全よりむしろ破壊の存在と思われがちです。しかし、工事現場という自然に一番近いところで仕事をしている建設業だからこそできることもあります。また、豊かな自然や生きものを守りながら、工事をを行い、「ものをつくる責任」があると考えています。そこで、建設業の負のイメージの払拭と自然との共生社会の実現を目指し『エコミーティング』活動を 2009 年から開始しました。

目的

工事現場において自然環境への配慮を行い、未来に豊かな自然と暮らしやすい街を提供し、人と生きものが笑顔で暮らせる生物多様性に富んだ環境の創出を目的としています。

取組内容

エコミーティングとは、①自然環境配慮、②住民環境配慮、③コミュニティづくりの 3 つのポイントで、受注した工事現場においてどのような配慮・工夫ができるかを工事担当者だけでなく営業、事務、技術社員も含めた多様な視点で、検討・実施するものです。特に注力しているのが①自然環境配慮です。エコミーティング活動をするにあたり、社内でビオトープ管理士の資格取得を推進し、専門知識の習得と現場における対応力の強化を行いました。2020 年 2 月現在において、全社員の約半数にあたる 172 名がこの資格を保有し、活躍しています。



エコミーティング（現場視察）

活動内容としては、工事現場の生態調査（水生生物・野鳥・植物・他）、環境掲示板を用いた啓発、在来種の保護及び外来種の駆除、設計変更による生物多様性への配慮（自然再生、希少種保護）などを行っており、具体的な保全活動事例は次のとおりです。

実施例 1：水路の生物保護では、農業用水路改修工事において、絶滅危惧種のトンガリササノハガイなど、多くの水生生物が見つかったため、工事着手前に捕獲保護を行い工事影響外の同水系河川に放流先を選定し、選定場所の水質が生きものに適しているか 1 週間試験飼育を行った後に放流を行いました。

森林	里山	河川	湖沼	湿地
海岸	公園	農地	野生生物の保護	外来種対策
ふれあい活動の場の整備	生物多様性に配慮した製品	地産地消	環境教育・普及啓発	地域貢献
協働	その他：			

実施例2：ヨシ原の復元と希少種対策では、河川の橋脚補強工事において、現場に残置された玉石によりヨシ原の生育エリアが分断されていたため、発注者への提案と設計変更により玉石を撤去しました。その結果、ヨシ原の連続性が確保されたと同時に、絶滅危惧種であるタコノアシの繁茂エリアも増大しました。さらに、撤去した玉石を護岸として活用することで、廃棄物発生防止と多孔質な護岸の形成による生物多様性の向上にもつながりました。



水路の生物保護

実施例3：コアジサシ営巣地保護とモニタリングでは、宅地造成工事において、現場内に絶滅危惧種のコアジサシが確認され、数十単位のペアが営巣していることがわかりました。工事を継続すると営巣環境に影響を与えることから、工程調整を行うとともに保護エリアを設け、巣立ちまでをタイムラプスカメラで24時間モニタリングすることで無事に見守る事ができました。

最近では、他社（元請業者・下請業者）とともに活動する機会も増え、活動の広がりを実感しています。近年では、SDGsの機運も高まり、自然の大切さを一般の方に伝える重要性を意識しています。そこで、自然観察会の実施（なごや環境大学共育講座：夏期・冬期）や環境イベント（環境デーなごや、あいち・なごや生物多様性EXPO）への出展の推進、さらには生物多様性への取組推進を目的とした研修での講師依頼など、未来を見据えた生物多様性の啓発活動や担い手育成に貢献しています。

今後の展望

『エコミーティング』を建設業界のスタンダードにすることを目標に、同業他社や関係機関へのさらなる普及啓発を推進し、今ある豊かな自然を後世にも残す担い手づくりに、より一層注力していきます。

ベストプラクティス
受賞団体コメント



久坂耕さん

株式会社加藤建設

弊社ではCOP10とほぼ同時期の2009年より、建設業における環境活動『エコミーティング』を開始し、生物多様性の保全に注力して参りました。次のステップである2050年に向け、“生物多様性の保全”と人々の命を守る“インフラ整備”の両立した『自然と共生する世界』を目指し、今後も環境活動の実践・啓発を続けて参ります。

株式会社三五

森と水辺の生態系保全

～自然と共生する企業を目指す株式会社三五～

活動期間 2006 年～

活動場所 名古屋市 等

web <https://sango.jp/csr.html>

35 万本の植樹を目指し、愛知県内だけでなく世界中で森づくりを展開し、近隣企業や地域にもその活動の輪を広げています。

ポイント

植樹された場所は生態系の回復が図られ、地域の環境学習や希少種の保全に活用されています。

背景・経緯

企業の基本理念に「環境づくり」を掲げ、35 万本の植樹を目指した森づくりを展開しており、国内外の工場で植樹祭を開催し、従業員とその家族で苗木を植栽しています。特に自然共生の拠点となっている ECO35^{エコサンゴ} は、かつての工場跡地であり、見つかった土壤汚染を 2 年かけて浄化、その後 2 年間のモニタリングを経て、環境に少しでもいいことをしたいという考えから、2006 年から植樹活動を始めました。名古屋の真ん中でありながら、森と水辺、田んぼや水路などの里山環境を復元し、多くの生物が生息する都会の中のアシスとなっています。

目的

植樹活動やビオトープ保全、自然共生活動によって、森と水辺の生態系を保全することを目的としています。

取組内容

三五グループの植樹拠点は、国内 11 か所、海外 8 か所でこれまでの植樹数は 2020 年 2 月末までの実績で、28.8 万本となっています。

三五では、自社の植樹と並行して、地域や他企業に植樹活動を広めています。例えば、東日本大震災の津波被災地に森の防潮堤をつくるため、東北で採取された木の種子を頂き、三五の各工場で 2 年程度苗木に育てています。毎年、宮城県岩沼市の海岸にて行われる千年希望の丘植樹祭に提供し、2019 年までに延べ 2 万本の苗木を送りました。また、各工場の育苗担当者が実際に現地に赴き植樹活動にも参加しています。

愛知県内では、みよし市と地元ボランティア団体と協働活動として、同市の公園整備の一環で植樹祭を行うための企画と植樹祭にむけての指導を行い、2019 年 2 月に植樹祭を実施しました。未来に本物の森を残したいという思いから、子ども中心の植樹祭としました。

さらに、周囲に森づくりを行った名古屋市の ECO35 とみよし市の八和田山工場の調整池では、ビオトープを創出しています。ECO35 ではヘイケボタルを指標種として自生を目指した活動をしています。八和田



ECO35 の森とビオトープ

森林	里山	河川	湖沼	湿地
海岸	公園	農地	野生生物の保護	外来種対策
ふれあい活動の場の整備	生物多様性に配慮した製品	地産地消	環境教育・普及啓発	地域貢献
協働	その他：			

山工場のビオトープでは東海丘陵要素植物のシラタマホシクサやトウカイコモウセンゴケ等希少種を保全しています。

今後の展望

自然と共生する企業を目指して国内外の工場2か所でビオトープ創出を計画中です。



社員とみよし市民の森づくり協働作業

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

グッドプラクティス

特定外来生物オオキンケイギクを駆除して在来種の堤防風景に！

活動期間 2016年～

三五三好工場裏の砂後川堤防は、特定外来生物のオオキンケイギクで覆われます。一方で、チガヤ、ツリガネニンジン、ワレモコウ等の在来植物が確認できます。そこで、オオキンケイギクの分布拡大を防ぎ、在来種の河川堤防を復元するため、社員や地元自治会 250 名ほどで毎年オオキンケイギクを除去しています。

はじめは、みよし市役所と三五で駆除活動を実施していましたが、その後、東郷町役場と東郷町の企業にも賛同いただき、活動が広がっています。

ECO35 田んぼの活動と環境学習会

活動期間 2010年～

『見る、触れる、体感する』をメインに、子どもたちにもものづくりのすばらしさや自然共生の重要性を楽しく知ってもらうイベントを実施しています。

名古屋の真ん中で里山環境を復元した ECO35 での田植え、稲刈りの体験やミニビオトープを作り生態系を観察する環境学習会を通して、自然環境を五感で体験してもらっています。

取組キーワード

外来種対策

地域貢献

協働



オオキンケイギク駆除の様子

里山

環境教育・普及啓発

地域貢献



名古屋市内の小学生による田植え体験

ベストプラクティス
受賞団体コメント



高野薫さん

株式会社三五

この度はベストプラクティスに選んでいただき誠に嬉しく思います。当社は、本社である名古屋市熱田区の ECO35 で 2006 年から森づくりを始め、その後ビオトープや田んぼを整備しました。今では都会の真ん中に自然豊かな生物のオアシスができています。これからも、より良い地球を未来に残していくために、国内外の工場でも森づくりやビオトープ整備といった自然共生活動に邁進していきます。

ソニーグローバルマニュファクチャリング&オペレーションズ(株)幸田サイト

企業緑地の再生と緑地を活用した貢献活動

活動期間 2008年～

活動場所 ソニーの森（額田郡幸田町）

web <http://www.sony-global-mo.co.jp/>

ポイント

ソニーの森を通じて、在来種の苗木づくりとそれを活用した植樹活動など様々な社会貢献が行われています。活動期間も長く継続しており、地域の他の企業や地元の保育園、小学校とも協力して活動しています。ほかにも、在来種の苗木づくりなど、目標期間を設定し、計画的にテーマを持って活動を行っています。

背景・経緯

山を平地にするため山の70%削り工場棟や駐車場が建設されました。赤土になっているところに、社員が樹木を植え始めたことが始まりで、社員の憩いの場にもなる「緑豊かな公園工場」の活動が始まりました。隣接する森を「ソニーの森」と名付け、遊歩道や展望台を設置しました。その後、在来種を意識した植樹で緑の質を上げ、創出した緑を利用した社会貢献活動や、緑を創出する仲間を増やす活動へとステップアップしています。

目的

緑地が自然のままで残り、生態系が変化しないように維持する必要があります。「フクロウの棲む森づくり」で森の生態系を維持し、「在来種の苗木づくり」で昔からある地元の森を維持し、「環境学習の場の提供」で社員とその家族、近隣の子どもたちが緑地の重要性を知り、協力して元気な森を維持できる活動を行っています。

取組内容

ソニーの森を中心に、様々な取組を行っています。フクロウの棲む森づくり活動では、2008年から活動を開始しました。毎月、社員のボランティアで間伐を行い、フクロウの餌になる小動物の棲み家を作ったり、フクロウの巣箱を作って木に掛けました。2016年にフクロウが誕生し、その後毎年誕生しています。

社員を中心とした活動が実を結んだことや、誕生に至るまでに得た知識や経験は、情報発信をすることで他の地域の環境活動にも活かされると考えています。活動に携わった社員たちは、フクロウだけでなく周辺の環境整備の必要性も認識でき、活動を通じて生態系や生物多様性についても学習することができました。在来種の苗木づくり活動では、2011年から在来種の苗木づくりの活動を開始しました。3年計画で、1年目はドングリを拾って発芽させ、2年目で近隣の子どもたちに苗木を渡し、子どもたちが1年間かけて育てるという里親制度を行いました。3年目で、子どもたちから苗木を返してもらい、ソニーの森や近隣の学



ソニーの森の説明

森林	里山	河川	湖沼	湿地
海岸	公園	農地	野生生物の保護	外来種対策
ふれあい活動の場の整備	生物多様性に配慮した製品	地産地消	環境教育・普及啓発	地域貢献
協働	その他：			

校、公園、里山に植樹する活動を行いました。初回の3年計画では、コナラやアベマキの苗木づくりを行い、2回目の3年計画ではヤマザクラを加えて苗木づくりを行いました。単に苗木づくりや植林活動を行うだけでなく、計画性と過程を重視し、地元子どもたちが愛着を持って苗木を育て、植林後も愛着を持ってもらい、継続的な活動により里山づくりにも貢献することが出来ます。環境学習の受け入れでは、ソニーの森に様々な団体の受け入れを行っています。

2015年・2016年に「かがやけ☆あいちサスティナ研究所」の企業活動研修を受け入れ、学生から環境整備に関する提案を受けて、改善活動を行いました。ほかにも、幸田町立坂崎小学校の総合学習にも活用してもらうために、2019年度には4年生60名を受け入れ、ソニーの森についての勉強や、在来種の苗木づくりの体験、野鳥の観察会などを行いました。



フクロウの巣箱作り

今後の展望

今後も現在の活動を継続し、環境学習の受け入れでは坂崎小学校のほかにも様々な団体の受け入れを行っています。また、在来種の苗木づくり活動は、3年周期から毎年の活動に変更し、苗木づくりの頻度を増やすことで、活動のさらなる普及促進と植林を通じた里山づくりに貢献していきます。

ベストプラクティス
受賞団体コメント



加藤雅親さん

ソニーグローバルマニュファクチャリング & オペレーションズ(株)幸田サイト

四季を感じる緑地と白い工場の調和を考えた整備を行っています。隣接するソニーの森の整備活動は社員のボランティアで行っており、社員の作ったフクロウの巣箱を利用して5年連続でフクロウの赤ちゃんが巣立っています。フクロウの誕生を確認した時は整備している社員の士気が上がり、「来年も誕生したらいいね」とがんばっています。

トヨタ車体株式会社

ふれ愛パークを拠点とした産官学民の連携による 地域に根付く生物多様性保全活動

活動期間 2011年～

活動場所 トヨタ車体 刈谷 ふれ愛パーク（刈谷市東境町）

web <https://www.toyota-body.co.jp/>

ポイント

ふれ愛パークのビオトープでは、呼び込む生物の目標を定め、計画的に管理し、質の高い環境を実現しています。ビオトープを活用しながら、環境学習活動を実施し、環境人材の育成と環境活動に取り組む体制づくりが行われています。

背景・経緯

当社は地球規模の環境問題に対し、長期視点で環境負荷削減にチャレンジする「トヨタ車体 長期環境ビジョン」を策定しています。そのビジョンの実現に向けた実施事項として、5年毎に定める環境取り組みプランを「低炭素社会の構築」、「循環型社会の構築」、「環境保全と自然共生社会の構築」、「環境経営（マネジメント）」の4本柱で、トヨタ車体グループ一体となって取り組んでいます。その中の1つである環境保全と自然共生社会の構築活動では、2000年初頭から森林整備活動を国内外で展開し、第5次トヨタ車体環境取り組みプラン（2011～2015年）の中で「自然と調和する工場づくり」を掲げ、自然共生社会の充実を図っています。

本社・富士松工場の周辺環境でも、市街化が進み、生物多様性の劣化が危惧されていました。そこで、愛知県と連携しながら刈谷北部の生態系ネットワーク形成の拠点づくりを目指し、2014年に、雑木林、鎮守の森、果樹園、田畑等を兼ね備えたビオトープである「ふれ愛パーク」をオープンしました。

目的

失われつつある刈谷北部の自然を、当社の自然共生活動により取り戻し、人と自然の共生を確保することを目的としています。この活動を通じて、従業員、地域住民の生物多様性保全意識を醸成し、環境と調和がとれた持続可能な事業活動を目指しています。

取組内容

ふれ愛パークづくりには、①場づくり、②人づくり、③組織づくりの3本柱で行っています。

場づくりでは、ふれ愛パークがビオトープとして成長する段階ごとに、地域から呼び込む生きものを数値目標として短期（パーク施工から3年間）42種、中期（パーク施工から5年間）53種、長期（パーク施工から10年間）63種、超長期（パーク施工後の11年目以降）70種と定め、順応的な管理をしながら生きものの生息空間づくりを行っています。現在ではクロイトトンボ、シオカラトンボ、シジミチョウ、ニホンカナヘビ、トノサマガエル、カワセミ、カシラダカなどが生息しています。（目標種70種のうち46種の生息を確認）このビオトープづくりは、施



ふれ愛パーク ビオトープ

森林	里山	河川	湖沼	湿地
海岸	公園	農地	野生生物の保護	外来種対策
ふれあい活動の場の整備	生物多様性に配慮した製品	地産地消	環境教育・普及啓発	地域貢献
協働	その他：			

工計画から専門家の指導を受けて、刈谷周辺の水辺環境をモデルに、ウキヤガラ、ヤナギタデなどの在来植物、刈谷に生育しているアベマキ、コナラの落葉樹を植えました。生息状況の確認として、毎年モニタリングを行い、自然の推移を見ながらビオトープの維持管理を環境変化に応じ、メンテナンスを行っています。

人づくりでは、地域の自然を復元したビオトープを活用しながら、生きた教科書として生物、植物、外来種を題材にし、従業員や地域の子どもたちに環境教育を行っています。現在は、愛知県環境学習行動計画 2030 に示されている「持続可能社会を支える人づくり」に貢献すべく、多様な主体と連携しながら「生きる力を培う教育」にも力を入れています。これまでに、延べ 2,900 人の子どもたちに環境学習を提供し、小学校から大学生までのあらゆる年齢層に学びを提供しています。2018 年度から愛知教育大学と協働事業「先生の卵を育てるプロジェクト」として、近年の自然離れにある将来の先生になる大学生に対しての環境学習活動にも役立てられ、愛知教育大学の正式な授業として承認されました。

組織づくりでは、持続可能なビオトープづくりが課題であることを認識し、「当社のビオトープ」から「地域の皆さまのふれ愛パーク」として、地域の方々に愛され続けるふれ愛パークを目指して活動しています。当社は地域や教育機関、行政などと連携し、2013 年から「地域連絡会」を発足しました。地域連絡会の活動として、東境土地改良区の方から出た意見をきっかけに、地域に生息している外来種「アカミミガメ」の駆除活動があります。この活動は継続的に行われており、民間企業が主導している外来種駆除活動として環境省からも注目されました。



愛知教育大学コラボ環境教育

今後の展望

ふれ愛パークの活動をモデルケースとし、トヨタ車体グループ各社と連携を図り、各拠点の地域に波及させ、トヨタ車体環境ビジョンの「人と自然が共生する社会づくり」を達成し、各拠点で地域と協働しながら生物多様性の主流化が社会に浸透することに貢献していきます。

ベストプラクティス
受賞団体コメント

トヨタ車体株式会社



志水剛さん

トヨタ車体は、環境との調和がとれた持続可能な事業活動を目指しています。地域の皆様とともに協力し、地球規模の環境問題に対し長期視点で取り組み、自然と調和する工場づくりを通じ、さらなる自然共生社会の充実を図っています。今後も刈谷ふれ愛パークにおける、場づくり、人づくり、組織づくりの活動を充実させ、生態系の保護、生態系ネットワークづくりに貢献していきます。

チーム YMO（（公財）名古屋市みどりの協会、（株）山田組、（株）オオバ）

農とみどりのわくわくマイパーク～農業文化園・戸田川緑地における里山的自然空間の保全とそれを活用した環境学習プログラムの実施～

活動期間 2018 年～

活動場所 名古屋市

web <http://bunkaen-todagawa.jp/>



ポイント

行政と市民が協働で作った「とだがわの森」やビオトープ、体験農園を活用し、市民団体、企業団体、教育機関など多くの団体に関わり、保全活動、環境学習、農業体験など様々な取組が行われています。

背景・経緯

名古屋市南西部にある公園「農業文化園・戸田川緑地」は、戸田川を挟み南北 2.5km、東西 0.5km、約 30ha の敷地面積をもつ、市南西部では最大の公園です。指定管理者チーム YMO は、農業公園である「農業文化園」と都市公園である「戸田川緑地」を一体的に管理運営しています。

農業文化園は、農の情報発信や農業体験などにより、農に親しみ、学ぶことができる施設です。戸田川緑地は健康とスポーツの里がテーマの公園で園内には「とだがわの森」「とだがわ生態園（ビオトープ）」「農業科学館」「フラワーセンター」「体験農園」「体験水田」「花と野菜のにじ色農場」などの施設が整備されています。

市民・企業・行政の協働による「なごや西の森づくり」事業は、園内で植栽・育樹がはじまって 20 年目を迎え、20 年前に植えた苗木は 10m を超える樹木もあり、様々な生きものの棲み処となりつつあります。

目的

「農業文化園・戸田川緑地」における在来生物の保全と外来生物の対策に取り組むとともに、市民活動や環境学習の場として、都会の新たな里山的自然空間の提供と持続的な活用を行っています。

取組内容

農業文化園・戸田川緑地は公園の基本的な価値に加え、「農とみどりのわくわくマイパーク」という目標像を掲げ、訪れるすべての人々が豊かな環境の下で楽しく過ごす時を提供し、人々の交流を通して、地域の個性と愛着を育み、「公園が私のライフスタイルの一場面となる」公園文化の実現を目指しています。

農業公園と都市公園という役割の異なる公園が融合するこの環境を、都会の新たな里山的自然空間ととらえ、名古屋市内の『生物多様性拠点』として、市民ボランティアや企業、行政との連携や、構成メンバーのそれぞれの専門性を活かし、質の高い管理運営を行っています。



なごや西の森づくり事業

具体的にはニホンタンポポの保護や外来生物の駆除をはじめとする生物多様性の保全や親子参加の稲作体

取組キーワード	森林	里山	河川	湖沼	湿地
	海岸	公園	農地	野生生物の保護	外来種対策
	ふれあい活動の場の整備	生物多様性に配慮した製品	地産地消	環境教育・普及啓発	地域貢献
	協働	その他：			

験、ビオトープ管理士の研修の場の提供、自然観察など環境教育に関する取組を数多く実施しています。その他、農とみどりに関する幅広いジャンルの講座、ワークショップ、展示会、イベントなどを数多く開催しています。

また、園内の剪定枝のチップ化と園路舗装への利用や、落ち葉を利用して堆肥を作るなど、園内資源の持続可能な利用にも取り組んでいます。

現在、市民ボランティア・企業・行政による継続的な協働により、「とだがわの森」「とだがわ生態園（ビオトープ）」はカブトムシ、ノコギリクワガタ、アサギマダラ等が生息する、生物多様性に富んだ森やビオトープに育ちました。また、当園には年間延べ約110万人以上の方が訪れます。実践する多様な企画（ボランティア活動、教育機関と連携した環境教育、農に関する講座・研修、イベントなど）の開催は年間延べ200回を超え、これらへの参加者は年間5,000人を超えています。また最近では、特に昆虫や生きものに関する講座・プログラムの人気は高まっており、公園の自然度が成熟するとともにこれらの講座・プログラムが増加しています。



田んぼ体験しよう！～昔ながらの農具を使って

今後の展望

名古屋の大都市内にあっても野鳥や昆虫など多様な生物が生息する園内の自然環境の維持・育成を市民・企業・行政のパートナーシップによって進めていきます。

さらには専門家の指導を得ながら、生物の生息環境の多様化を図るため、森の野鳥や昆虫が好む植物の保護・育成、生態園での水生生物の保護・調査に取り組み、在来種が定着できる環境を整えていきます。「とだがわの森」で子どもたちがカブトムシ、クワガタムシ、アサギマダラなどの昆虫に出会うことができ、さらにアオバズグが頻繁に飛来するような都市近郊の里山的自然空間の成熟をめざします。また将来の夢として、「とだがわ生態園」や戸田川にコウノトリが飛来できるような園内環境整備に取り組むとともに、広域的な環境保全への啓発と連携に取り組んでいきます。

ベストプラクティス
受賞団体コメント



佐藤充男さん

チーム YMO（（公財）名古屋市みどりの協会、（株）山田組、（株）オオバ）

農業文化園・戸田川緑地という里山的自然空間の保全とそれを活用した環境学習プログラムの実施は、多くの方のご支援・ご協力の上に成り立っており、関わっていただいた皆様方のおかげで受賞できたことを大変うれしく思います。

今後も“農とみどりのわくわくマイパーク”という目標のもと、公園に訪れる皆様方とともに生物多様性の保全と環境教育活動に取り組んで参ります。

株式会社山田組

東谷山・天空のアグリパークにおける生物多様性を重視した環境保全型農業の実践と都市農業とふれあえる場の創出

活動期間 2012年～

活動場所 名古屋市

web <http://www.berry-good.sblo.jp/>

ポイント

建設業における環境保全では先駆的な活動のひとつで、化学肥料や農薬をできるだけ使用しない農産物を生産しながら、農業や環境を体験できる場として活用されています。

また、有機肥料の開発、障害者の就労体験などの他の分野へも活動を広げています。

背景・経緯

名古屋市守山区東谷山周辺は名古屋市における農業地帯で、特に果樹が盛んな地域ですが、一方で耕作放棄地や遊休農地は増加の一途をたどっています。株式会社山田組は都市農業の重要性に着目して、2012年10月に名古屋市で初めて守山区にある農地を利用権設定して農業参入し、この農地を「天空のアグリパーク」と名付けました。

この「天空のアグリパーク」は名古屋市で一番高い山である「東谷山」のふもとにあり、元々生物多様性豊かな土地柄です。その中であって「天空のアグリパーク」は都市農業の自然環境保全機能の一役を担える農法を行うことを理念のひとつとしています。

目的

生物多様性を重視した環境保全型農業の実践と都市農業とふれあえる場を創出し、継続的に活動していきます。

取組内容

「天空のアグリパーク」は東谷山周辺の豊かな自然環境に配慮してブルーベリーや梅などの果樹を中心とした、化学肥料や化学農薬をできるだけ使用しない農産物を生産しています。加えて農業や環境を楽しく学び、体験できる場として活用して、生物多様性を重視した環境保全型農業の実践とそれを普及啓発する場として様々な体験・学習ができる事業を行っています。

農業については、化学農薬をほとんど使用せず、物理的、生物的な防除対策を組み合わせる IPM（総合防除）の手法を駆使して生物多様性豊かな環境を維持し、自然が本来有する生産力を尊重した方法で生産する「環境保全型農業」を行うことで、結果的に化学農薬不使用を実現し、収穫量もある程度落とさず行っています。

また、名城大学環境土壌学の村野宏達先生や学生、企業とともに、腐植土を使用するブルーベリーに適した有機肥料開発の研究を始めました。具体的には、廃棄されるコーヒー粕を使った「コーヒー粕を使った酸



梅の収穫体験

森林	里山	河川	湖沼	湿地
海岸	公園	農地	野生生物の保護	外来種対策
ふれあい活動の場の整備	生物多様性に配慮した製品	地産地消	環境教育・普及啓発	地域貢献
協働	その他：			

性土壌を好む植物の有機肥料の開発の検討」を行い、地域の資源循環に寄与すべく調査研究を行っています。

また、梅やブルーベリーが実るのにはミツバチによる受粉が欠かせませんが、そのミツバチが生息する自然環境を守るために、自分たちがどう行動すればいいかを考える環境イベントを守山生涯学習センターとともに年に数回行っています。

その他、障害者の就労体験の受入れや、観光農園として都市住民への農や自然体験の機会の提供、東海食育ネットワークへの登録や農業女子プロジェクト参加による情報収集や発信を行っています。



コーヒークズを使った有機肥料の開発

今後の展望

今後はこれらの活動をさらに活性化すべく、公益財団法人名古屋市みどりの協会が管理する東谷山フルーツパークと連携し、周囲の農家などとも協力体制を構築して都市農業を盛り上げ、東谷山周辺の生物多様性豊かな環境をもっと広域的に保全していける地域ぐるみの活動や仕組みづくり、人材育成を行っていきます。

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

グッドプラクティス

地元建設業者による学校・児童館などでの継続的な環境出前講座の実践

活動期間 2005年～

株式会社山田組では本業の生産活動での環境配慮と並行して、2000年頃から積極的に社会や教育現場との接点を増やして、工事現場の見学会や環境出前講座などを実施しています。現在では年間講座数は20回を超えて1,000人以上の子どもたちが参加し、環境意識の向上と建設業が実践する環境活動への興味・関心を高めています。

取組キーワード

野生生物の保護

環境教育・普及啓発

地域貢献



不用品を活用したエコ工作講座

ベストプラクティス
受賞団体コメント



山田厚志さん

株式会社山田組

都市内農地の保全や活用の場として「天空のアグリパーク」を開園して8年が経ちました。以来、今日まで多くの皆様のご支援・ご協力をいただいていたことに感謝いたします。6月からは農地の利用権を公益財団法人名古屋市みどりの協会に移譲した上で、引き続き活動を継続していきます。次代を担う子ども達への環境出前講座の実施も、今回の受賞を励みにさらに教材の充実を図っていきます。

アイシン精機株式会社

アイシングループによる地域と一体となった環境保全活動

活動期間 2007 年～

活動場所 ビオトープ（半田市）

web <https://www.aisin.co.jp/>

アイシングループでは、COP10 以降、水に関わる自然の保護活動を行ってきました。全国のグループ会社を核として、地域の自然保護活動と連携を図り、子ども達へ生物多様性の教育等を行うとともに、小学校、官公庁その他専門機関とネットワークを構築して活動の活性化を図ってまいりました。

工場排水を 100% 利用したビオトープであるアイシンの森（半田市内）では、地域環境との調和を図るべく、知多半島在来種による植生を形成しています。2007 年からは、当地で小学生を対象とした環境教育を行っており、約 3 万人（350 校）が受講しています。2013 年からは、生きもののモニタリング調査を実施しています。また、カワバタモロコ（国及び県の絶滅危惧 IB 類）の保全・育成を地域の専門家と連携して実施し、順調に繁殖に努めております。

今後も、NPO や地域、小学生にも参加していただき、プログラムを拡大して、子どもたちへの環境学習活動に貢献、また、先駆的企業としての企業モデルの確立も目指します。

取組キーワード

外来種対策

環境教育・普及啓発

地域貢献



地元小学生の体験型環境学習



矢作川下流の生きもの観察・清掃活動

ウッドフレンズ共同企業体

愛知県森林公園における自然観察会の実施 および自然をしらせるメール情報紙の発行

活動期間 2011 年～

活動場所 愛知県森林公園（尾張旭市新居）

web <https://aichishinrin.jp/>

愛知県森林公園の植物園施設は大都市近郊に位置し、数か所の湿地や雑木林、大きな池など多様な自然環境が残されています。中高年世代を中心に、自然に関する学習への要求が増大していることを受けて、自然観察会を実施しています。森林公園指定管理者である私たちは、自然観察会を実施することで、多様な自然環境の存在とその大切さを啓蒙し、その内容などをメール情報紙として発信することで、より環境への関心を高めてもらいたいと考えています。

「森林公園・自然ウォッチング」と表した自然観察会を毎月第二金曜日の午前中に実施し、季節によって変化する昆虫、植物などをウォッチングしています。また、その内容や自然の奥深さを紹介するメール情報紙「コンペイトウの森通信」を毎月発行しています。加えて、「森林公園・野の花めぐり」「森林公園・なるほど森歩き」などの月例自然観察会を実施しています。

取組キーワード

森林

湿地

公園

環境教育・普及啓発



自然ウォッチング集合風景



冬の花 カンアオイの観察

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

角文株式会社

「持続可能な環境経営」 ～社会貢献と事業の両立をめざして～

活動期間 2003 年～

活動場所 角文ビオトープ「逢妻の郷」（刈谷市泉田町）等

web <https://www.kakubun.com/>

都市開発が進み自然が失われる中、都心に住みながら自然を感じたいとのお客様の声や、ホテルが飛び交っていたふるさとの自然を地域の子供達へ見せてあげたいとの思いから、ホテルの生態研究を開始し、『環境共生マンション』を企画開発しました。

社会貢献活動を全社員が楽しみながら参加することにより、社員の環境意識が高まり、そこから生まれる独自の環境技術や知識を自社の環境事業へ進化させ、社会に還元することで、社会貢献を行っています。小中学生や地域住民を対象にホテルの飼育指導や幼虫放流会を実施し、ホテルが生息できるビオトープを造成し、飼育生態観察やビオトープ構造の研究を実施しました。また、水質調査から生きものの採取、外来種調査、ごみの分類調査まで、身近な自然観察から生物多様性や環境を考えるきっかけづくりを支援しています。ほかに、森林保全活動では、豊田市北部の自社所有の山林にて森林保全活動を社員と家族で実施し、環境共生マンションの企画開発では、ホテルが飛び交うビオトープ付マンションを建設しました。

取組キーワード

森林

河川

ふれあい活動の場の整備

環境教育・普及啓発

地域貢献



間伐体験



ホテルの幼虫放流会

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

積水ハウス株式会社 中部第一営業本部

「5本の樹」計画

活動期間 2001 年～

活動場所 学校、分譲地 等

web https://www.sekisuihouse.co.jp/sustainable/environment/biodiversity_1/index.html

庭づくりでは、「美しさ」や「景観」にこだわり、「園芸種」や珍しい「外来種」の植物を珍重する傾向が見られます。また、都市化の進行や農薬利用による昆虫の減少などにより、生物多様性も劣化が進んでいます。当社は、日本で一番多くの住宅を提供するハウスメーカーとして、庭づくりを介してこの状況を変えていきたいと考えています。

ヒートアイランド現象緩和の観点から、冷暖房に頼らず、緑化を利用した街づくりが注目されています。当社は、住宅を通じた自然環境の保全に向け、「里山本来の姿」を手本に 2001 年から生態系に配慮した庭づくり・まちづくりの提案として、“3本は鳥のために、2本は蝶のために、日本の在来樹種を”という思いをこめて、生きものたちが利用しやすい在来樹種を中心に庭づくりの提案をする「5本の樹」計画を進めてきました。

初年度である 2001 年度の年間植栽本数は約 55 万本でしたが、2013 度には約 106 万本にまで増加し、累積の植栽本数は、1,500 万本を達成できました。あわせて、樹木やその樹木に集まる鳥や蝶の情報が入手できる「5本の樹・野鳥ケータイ図鑑」サイトを開発し、普及に努めています。

取組キーワード

森林

里山

野生生物の保護

外来種対策

環境教育・普及啓発



「5本の樹」社内研修



「5本の樹」社内研修

市民団体・NPO

企業

教育機関

行政・その他

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

中日精工株式会社

三河産間伐材、廃木材を利用した 環境にやさしい消臭剤「消臭木」の開発・製造

活動期間 2005 年～

活動場所 豊川市 等

web <https://www.rakuten.co.jp/syousyumoku/>

当社は、自動車、農業機械用の歯車専門企業です。2005 年開催の愛知万博を機に、愛知県とともに間伐材や廃木材を利用した木質 100% の工業用の成形品を作る研究開発を進めてきました。この開発過程で、成形品の原料である木材自体が消臭効果を発揮することを発見し、三河産間伐材や廃木材を利用し、天然素材の香りと消臭効果を特徴とした商品開発をすすめました。

現在は、県産間伐材の利用促進、廃木材の再資源化による環境負荷低減を図るため、三河産間伐材、廃木材チップを活用し、天然素材の香りと消臭効果を特徴とした「消臭木」及び「ふわり森のかほり」を開発し、東三河の店舗や道の駅などで「消臭木」を販売することで地産地消を推進しています（販売累計数 15 万個）。地元開催のイベントなどへ出店し、消臭木チップの詰め放題など子ども達に木にふれあってもらう木育活動を実施しました。一般的な消臭剤はプラスチックを使用していますが、「消臭木」は木材でできているため、プラスチック使用量の削減に貢献しています。今後も販路拡大を目指し、地元イベントでも広報し、県産材利用の促進、プラスチック削減など環境負荷低減に貢献します。

取組キーワード

森林

生物多様性に配慮した製品

地産地消

地域貢献



消臭木



蒸煮工程

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

株式会社デンソー

社員食堂でのサステナブルシーフードメニュー導入

活動期間 2019 年～

活動場所 会社の全社員食堂（30 か所、20 年 4 月時点）

web <https://www.denso.com/jp/ja/>

SDGs への取組が加速するなかで、特に社員のサステナビリティ意識を高めることが重要と考えていました。しかし、業務で多忙な社員に従来型の教育研修を実施することは難しく、時間をかけずに SDGs を浸透させる方法を模索していたところ、このサステナブルシーフードによる活動の存在を知りました。身近な「食」から海洋での環境問題（SDGs 目標 14）を認知することができ、また「サステナブルシーフード」普及への貢献につながることから、当社ではこれを活用した活動を推進することとなりました。

社内の全社員食堂において、月 1 回のイベントメニューとして提供しました。「サステナブルシーフード」導入には各食堂ロジスティックを含む認証取得が必要であり、その認証取得の関係のために最初は 1 か所からでしたが、2020 年 4 月からは会社の全食堂（30 か所）にてメニュー提供を開始しました。この活動を通じて多くの社員へ SDGs を浸透することができました。今後はさらに社内売店・販売機で植物由来のペットボトル飲料へ切り替えて販売するなど、拡充していきます。

取組キーワード

環境教育・普及啓発

その他：社員へのサステナビリティ・SDGs 浸透



食事提供カウンターに並ぶ社員



サステナブル・シーフード PR

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

戸田建設株式会社 名古屋支店

新東名高速道路額田トンネル工事における環境保全活動

活動期間 2008年～2014年 活動場所 岡崎市鳥川町 等

web <https://www.toda.co.jp>

当社は、建設工事による環境への影響を最小限にするため、希少動植物の保全、矢作川水系の清流への汚濁水流出防止、鳥類への公害対策、二酸化炭素排出量削減を目的として、工事全般に環境対策への取組を導入しています。

当該事業は、大規模造成を伴う建設工事は着手前に環境影響評価法に基づき、生態系などの環境へのリスクの評価が実施され、工事区域周辺には希少動植物（ナガレホトケドジョウ、ネコギギ、オオタカ、ゲンジボタル、シカクイなど）が確認されていました。工事範囲は延長約3kmに及ぶ広範囲であり、建設工事に伴う環境負荷の影響軽減が求められていましたので、里山森林整備活動への参加、希少動植物の移植、ゲンジボタルの保護活動、工事区域からの粉じん飛散防止、矢作川水系の清流への汚濁水流出防止、鳥類への公害対策、CO₂排出量削減、希少動植物を題材とした環境教育等を実施しました。専門家のご指導をいただき、地域の環境保全活動に積極的に取り組むことにより、地域の方々のご理解を得て無事に工事が完了できました。

取組キーワード

河川

野生生物の保護

環境教育・普及啓発

地域貢献



トンネル坑口



濁水処理設備と竹ソダ式沈砂池

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

豊田合成株式会社

豊田合成グループ自然共生活動

「地球上の命の源である水で活動をつなぐ」山～川（工場）～海のエリアでの取組

活動期間 2009年～ 活動場所 愛知県内事業所（清須市春日長畑） 等

web <https://www.toyoda-gosei.co.jp/>

COP10開催を契機に持続的で計画性のある活動とするため、愛知目標に対する自社活動内容を評価し、愛知目標達成に寄与できる「豊田合成グループ中期自然共生活動計画」を立案しました。スローガンである「地球上の命の源である水で活動をつなぐ」のもとに、豊かな森で豊かな水をつくる、絶滅しそうな生きものを育てる、地域の生きものを守る、生きものを育む綺麗な海を守るを目的とし、山、川（工場）、海のエリアで自然共生活動を推進し愛知県の生物多様性に寄与しています。

山での活動としては、水源である木曽川流域の荒廃した里山を水源涵養、CO₂の吸収が可能な里山に整備しました。川（工場）での活動としては、地域潜在植生種を地域住民と協働で工場に植樹し「工場の森づくり」を推進し、また工場内にビオトープを設置して、地域在来種、希少種生物の保全などを実施しました。海での活動としては、従業員および家族がボランティアで、藤前干潟クリーン活動へ参加しました。今後は、これらの活動を自社だけでなく国内外グループ会社にも展開していきたいと考えています。

取組キーワード

里山

河川

海岸

野生生物の保護

環境教育・普及啓発

協働



調整池ビオトープ



里山整備

トヨタ自動車株式会社

地域で絶滅の危機に瀕する鳥類の保全

活動期間 2012 年～

活動場所 豊田市および岡崎市

web <http://global.toyota.jp/>

新研究開発施設造成の事業地は、里山環境が広がる多様な生きものの生息環境であり、「自然と共存し地域と調和するテクニカルセンター」をコンセプトに、2012 年から里山環境保全活動を地域の方々とともに実施しています。

鳥類保全に関しては、営巣環境の減少によりこの地域で絶滅の危機に瀕している鳥類を保全するため、専門家と協働で「レッドリストあいち」などをもとに、対象種 6 種を選定し、各対象種の保全措置内容や場所を決め営巣環境の創出を行いました。また、他地域の保全好事例を視察し、事業地内で実施可能な事例を取り入れて実施しています。保全効果を把握するため、専門家とともに年 6 回程度現地によるモニタリングを行い、営巣の痕跡や生息確認を行っています。さらに、活動で得られた成果や知見は、学会などを通じて積極的に情報発信しました。今後とも、安定した営巣・繁殖場所を保全していく活動を、専門家とともに協働して取り組んでいきます。

取組キーワード

森林

里山

野生生物の保護

協働



巣箱を利用するブッポウソウ



巣箱利用状況の確認

トヨタ自動車株式会社 上郷工場

地域との強い連携で実施する自然共生活動

活動期間 2019 年～

活動場所 上郷工場（豊田市大成町）等

web <http://global.toyota.jp/>

上郷工場では、「自然と共生する工場」を目指し、工場周辺の昔ながらの風景を活かしつつ、さらにそこに溶け込めるように、また、生きものがもっと寄ってくるような場を作るための取組を開始しました。その一環として、地域と強い連携による自然共生活動を実現するため、地域とのワークショップを開催しました。

ワークショップは、計 3 回実施し、上郷工場の従業員に加え、豊田工業高校の生徒や地域住民が参加しました。また、ワークショップは、専門的な立場として豊田市矢作川研究所の指導のもとで進め、成果として上郷工場の東グラウンド及び猿渡川で目指すべき姿を作成しました。

また、地域と強い連携による活動の一環として、猿渡川における清掃活動及びアカミミガメを中心とした外来種駆除活動を豊田工業高校、地域住民、豊田市矢作川研究所と協働で実施しました。今後は、ワークショップにおいて検討した目指すべき姿に向け、活動を計画し、地域との協働で実施する予定です。

取組キーワード

河川

外来種対策

環境教育・普及啓発

地域貢献

協働



ワークショップ



猿渡川活動

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

トヨタ自動車株式会社 衣浦工場

コアジサシを中心とした生態系保全

活動期間 2017年～

活動場所 衣浦工場（碧南市玉津浦町）等

web <http://global.toyota.jp/>

衣浦工場では、「自然と共生する工場」の活動として、絶滅危惧種であるコアジサシを中心として衣浦地域に生息する生きものの保全を実施しています。「自然と共生する工場」は、2007年より取り組んできた植樹活動である「工場の森づくり」から発展させ、樹林環境にとどまらず、様々な生きものの生息環境に対象を拡大したものです。科学的根拠に基づいて活動を進めるため、有識者の意見を聴取することに加え、地域と協働での活動も積極的に実施しています。

コアジサシは、海岸・河川沿いの砂地に営巣しますが、最近では繁殖環境が減少しています。そこで、2017年に工場内の未利用地を活用した営巣地整備活動や誘致活動を開始しました。営巣地整備活動としては、砂利敷や水飲み場の造成や雛の隠れ場所の設置など、誘致活動としては疑似人形（デコイ）の設置や鳴声の音声を流すなどの活動を実施しました。本活動は、有識者に指導を受けながら、近隣に工場を構えるグループ会社と協働で実施しており、一斉調査による活動の効果確認や保全に対する意見交換会を行っています。

取組キーワード

海岸

野生生物の保護

協働



有識者やグループ会社と協働での調査



営巣したコアジサシ（2018年）

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

トヨタ自動車株式会社 堤工場

ビオトープを活用した「自然と共生する工場」の実現

活動期間 2018年～

活動場所 堤工場（豊田市堤町）等

web <http://global.toyota.jp/>

堤工場及びその周辺の生態系調査を実施した結果、工場は周辺と比べ、樹林、湿地・水辺等を生息環境とする生きものの生息が少ないことが明らかになりました。そのため、工場内に生きものが生息できるビオトープを創出することで、地域本来の自然や生きものを育む環境づくりを行っています。

2018年10月、地域本来の生態系保全への貢献を目的とした「びおとーぶ堤」を開設しました。「コナラを中心とした里山的な広葉樹林」をコンセプトに、近自然工法や地域生態系を考慮した生きものの導入を地元有識者の指導のもとで行っています。また、この地域に生息する代表的な生きものを指標種に設定し、それらの生息状況を従業員による調査で確認することで、活動の評価を行い、内容を見直すサイクルを定期的実施しています。ビオトープは、希少性が高い生きものの飼育、繁殖の場、子どもたちの体験学習の場としても活用しています。

取組キーワード

里山

野生生物の保護

環境教育・普及啓発

地域貢献



びおとーぶ堤



放流式

トヨタ自動車株式会社 貞宝工場

産官学協働で実施する自然共生活動

活動期間 2018 年～

活動場所 貞宝工場（豊田市貞宝） 等

web <http://global.toyota.jp/>

貞宝工場では、「水辺と緑の MORIBITO プロジェクト」として工場の環境を活かした自然共生活動に取り組んでいます。

2018 年度は貞宝工場における指標種を選定するため、工場の従業員、地域の有識者、豊田西高等学校、豊田市矢作川研究所と協働で工場及びその周辺の生態系調査を実施しました。四季における調査結果より工場及びその周辺の生態系の状況をとりとまとめ、貞宝工場の指標種（オオヨシキリ、トンボ類、カエル類、外来カメ類）を選定しました。2019 年度から貞宝工場の調整池を自然共生活動場所とし、工場の従業員、愛知教育大学、豊田西高等学校、豊田市矢作川研究所と協働で指標種調査及び生息環境維持・改善活動を実施しています。また、四季の調査終了後には、2019 年度の調査結果共有及び来年度以降の活動内容の検討のため、工場と豊田西高等学校が協力してワークショップを開催し、10 年後に目指す地域・貞宝工場の姿を描きました。今後もこの姿を目指して、活動を継続していきます。

取組キーワード

湖沼

野生生物の保護

環境教育・普及啓発

地域貢献

協働



オオヨシキリ調査



ヤゴ調査

株式会社豊田自動織機

ごんぎつねを守れ！ ～アニマルパス整備による生息域の拡大～

活動期間 2016 年～

活動場所 知多郡東浦町

web <https://www.toyota-shokki.co.jp/csr/environment/management/diversity/index.html>

東浦工場周辺では、近年キツネの生息が確認されるようになりましたが、十分な生息環境が確保できていないため、周辺道路でキツネが車にひかれる事故が発生していました。そこで、2018 年 3 月に同工場敷地内に約 300 m のキツネが安心して往来できる人工の獣道「アニマルパス」を整備しました。また、餌となる「スダジイ」や「コナラ」などの地域在来種を植樹したり、小動物の生息状況を確認するため、センサー付定点カメラを複数設置し、継続的に観察して、生息環境の改善を実施しています。

人と自然、地域をつなぐビオトープ ～生態系ネットワーク形成をめざして～

活動期間 2012 年～

活動場所 大府市中央町

「大府駅東ビオトープ」は知多半島の北端に位置し、工業化や住宅化が進み、自然環境が損なわれつつある中で、2 か所（あいち健康の森、ニツ池公園）の緑地をつなぎ、生態系ネットワーク形成に寄与する目的で、当社遊休地の場所にビオトープを整備しました。

取組キーワード

里山

野生生物の保護

環境教育・普及啓発

地域貢献

協働



協議会などとのワークショップ

里山

ふれあい活動の場の整備

環境教育・普及啓発

地域貢献

協働



学生実行委員会との生物調査

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

トヨフジ海運株式会社

名古屋港 海上美化活動

活動期間 1999 年～

活動場所 名古屋港

web <http://www.toyofuji.co.jp/>

名古屋港に面する港頭地区事業者としての地域貢献及び社内役員・従業員の環境意識向上のために、1999 年に名古屋港での海上美化活動を開始しました。

2000 年に海運会社としては初めてとなる国際環境規格「環境 ISO14001」の取得を機に、環境マネジメントプログラムに沿った海上美化活動として、長期にわたり継続しています。環境月間である 6 月に、多くの役員・従業員がこの活動に参加しています。小型船舶（3 隻程度）に乗船し、海洋生物や生態系への悪影響が懸念されるプラスチックごみ・ペットボトル・空き缶・ゴムタイヤ等の海洋浮遊ごみを、網等を用いて回収し、回収ごみは陸上の廃棄施設へ持ち込み、適切に廃棄処理しています。

今後も、未経験の役員・従業員が積極的に参加できる環境を整備し、海洋プラスチックごみ等の回収を通じた、海洋生物・生態系の保護に全社で取り組んで参ります。

取組キーワード

野生生物の保護

環境教育・普及啓発

地域貢献

協働

その他：海洋



海洋浮遊ごみ（岸壁周辺）



ごみ回収作業

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

ブラザー工業株式会社

ブラザーアース キッズ アカデミー

活動期間 2018 年～

活動場所 名古屋市

web <https://www.brotherearth.com/ja/>

ブラザーグループの環境活動のスローガンである「BrotherEarth」のもと「よりよい地球環境を、あなたとともに。」を統一メッセージとして、環境保全活動に取り組んでいます。また、「環境スペシャルサイト BrotherEarth」では、地球環境を自分ごととして考えるためのコンテンツとして、一日一種の絶滅危惧種をお届けする「日めくり絶滅危惧種」等により、生物多様性の大切さを伝え、私たちに何ができるか“考える”きっかけを提供しています。“考える”から“活動”に変えるため、次世代を担う子どもたちに「日めくり絶滅危惧種」を教材としたワークショップを行っています。

名古屋市の学童保育に通う児童を対象に、夏休みに地球温暖化の原因や影響、絶滅危惧種との関係を学ぶ機会を提供し、環境活動の取組として紙製のうちわに絶滅危惧種のステッカーを貼り、装飾してオリジナルうちわを作成してもらいました。

子どもたちからは「ぜつめつするどうぶつがかわいそうだと思った。」「にさんかたんそを作らないようにがんばろうと思う。」などの感想がありました。

取組キーワード

環境教育・普及啓発

地域貢献



ブラザーアース キッズ アカデミー



オリジナルのうちわ作り

三菱電機株式会社 名古屋製作所

里山保全活動

活動期間 2007 年～

活動場所 名古屋市

web <https://www.mitsubishielectric.co.jp/corporate/philanthropy/index.html>

多様な生命を育み、様々な恵みを与えてくれる自然へ「恩返し」するとともに、地域に貢献し、活動を通じて自然と共生する大切さを知り、環境や社会に対して高い意識を持つ人材を育成することを目的に、里山保全活動を実施しています。

里山保全活動では、「愛知守山自然の会」等の現地の自然保護団体と連携し、主に3つの活動（環境美化・人工林整備・自然観察会）に取り組んでいます。環境美化活動では、家電製品などの不法投棄が目立つ中でも、定期的にごみ拾い活動を実施し、周辺道路や山中の美化を行っています。人工林整備活動では、周辺道路や森林内の草刈や間伐を実施し、あわせて歩道の整備も実施しています。自然観察会では、屋外での工作教室や間伐体験を実施しています。また、自然観察会では生きものの調査も実施し、環境に対する意識を高めています。

これらの活動を、当社の新入社員向けの研修としても組み込んでおり、今後も参加者の裾野を広げながら、活動を継続していきます。

取組キーワード

里山

湿地

野生生物の保護

環境教育・普及啓発

地域貢献



自然観察会（生きものの調査）



間伐体験

農業生産法人みどりの里

自然栽培でつなぐ絆

活動期間 2013 年～

活動場所 豊田市亀首町

web <https://okome.booo-log.com/>

当会は、農薬を使用せず自然の力を引き出す自然栽培で米、イチゴ、野菜などを生産してきました。新たに障害者福祉団体と一緒に自然栽培を進め、障害者の働きにより、作業だけでなく福祉と一緒にグループを組んで販売できるようになり、農家仲間も増えてきました。

主な活動として、農薬を使わない環境配慮型の持続可能な食料生産を確立し、必要とする消費者に届けています。また、障害者の働く場として畑を機能させ、障害者の社会的な役割を農福連携で確立させることに努めています。また、農家と障害者福祉の関係を持続可能な形にするために、平日、障害者に毎日来てもらい、報酬を栽培している農産物で渡す手法で、障害者を継続して受け入れるシステムを構築してきました。農産物は、農薬を使用しない自然栽培なので、価格を下げることなく販売ができ、障害者が工賃を獲得しやすく、農家も人材の確保ができることから経営状況も改善しました。自然栽培を通じて自然環境と農業の両立を今後とも図っていきます。

取組キーワード

農地

生物多様性に配慮した製品

地産地消

地域貢献

協働

その他：障害者雇用



皆でサツマイモ収穫



障害者さんも機械で稲刈り参加

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

横浜ゴム株式会社 新城工場

横浜ゴム「千年の杜」

活動期間 2007 年～

活動場所 愛・地球博記念公園（長久手市）等

web 「横浜ゴム（株）CSR 千年の杜」で検索

当社は、地域・地球に「より良いプラスの環境効果を与える」社会貢献活動として、地域の生物多様性保全に寄与するために、工場などでの植樹活動とともに苗の提供と植樹ノウハウの提供をしています。会社創立 100 周年を迎える 2017 年までに国内外生産拠点に 50 万本を植樹する、「YOKOHAMA 千年の杜」プロジェクトを 2007 年に発足させ、国内外生産拠点にさらに多くの「杜」を創生していきます。

これまでも自社工場を中心に植樹を行ってきました。主な取組として、地域の遺伝子保護のため、潜在自然植生に合わせた樹種の種子を、県内の古木・大木や神社などの古木から拾い、播いてポット苗をつくり植樹に使っています。また、工場植樹用ポット苗作成のほかに、地域の里山づくり、鎮守の森づくり、水源の森づくり、通学路・地域の環境美化植樹用の苗も作り、希望する団体などに提供しています。ほかにも、新城設楽生態系ネットワーク協議会の第 1 回からの植樹活動に、植樹苗を提供し、植樹指導に 76 人が参加協力しました。今後とも、小学校や子ども園等で行っている環境学習活動を幅広く進めていきます。

取組キーワード

里山

公園

環境教育・普及啓発

地域貢献

協働



工場防災広場 2010 年植樹



工場防災広場 2020 年現在

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

リンナイ株式会社

リンナイの生物多様性保全活動と環境人材づくり

活動期間 2017 年～

活動場所 大口工場（大口町）等

web <https://www.rinnai.co.jp/>

当社は、地球環境に配慮しながら、誰もが、健康的な食事をすることができ社会的実現を目指しています。COP10 で採択された愛知目標の達成に貢献し生物多様性や環境にも寄与するため、「伝統野菜づくり」への挑戦と特定外来生物「オオキンケイギク」の駆除活動を通じて、生物多様性への配慮と地域の皆様との交流を図る取組を行いました。

伝統野菜を自ら「つくる・食べる」取組では、1,182 名の社員とその家族へ伝統野菜の種を配布し、自ら「栽培、収穫、食す」ことを通じて、地域の食文化や自然に触れ、緑に親しむ機会の場としています。

特定外来生物「オオキンケイギク」の駆除取組では、6 月の環境月間を目安に、当社グループ社員だけでなく近隣の自治体や、学校、近隣企業の皆様と一緒に、毎年駆除活動を行っています。

今後も社員のモチベーションを高め、さらに視野を広げて活動を継続していきたいと考えます。

取組キーワード

外来種対策

地産地消

環境教育・普及啓発

地域貢献

協働



伝統野菜の料理教室



オオキンケイギク駆除

FM いちのみや株式会社

環境保全、生物多様性保全をテーマとした番組作り

活動期間 2016 年～

活動場所 FM いちのみや（一宮市本町）

web <http://iwave765.com/index.html>

2016 年に放送を開始した「ただいま！エンジョイカ」は、環境保全や生物多様性保全の普及啓発を柱とした番組として大いに好評を博し、現在も放送が続いています。この番組の放送開始をきっかけに、様々な番組で普及啓発活動を展開しています。

「ただいま！エンジョイカ」では、地球温暖化防止を含めた「環境保全」や「生物多様性の保全」、「ラムサール条約登録湿地の保全」、「SDGs」をテーマとしたコーナーを放送開始当初から伝えてきました。その後も「エンジョイカでクールチョイス」や環境省補助事業参加番組として制作、放送された「劇団シンデレラ 僕たち地球の応援団」など、「環境」をテーマとした番組を多数制作、放送し、普及啓発に努めています。また、この地域の環境イベントの広報にも協力してきました。

今後も地域に根ざしたコミュニティ FM の利点を活かし、環境保全や生物多様性に関する番組を制作し、放送していけるようにします。

取組キーワード

森林

湿地

海岸

環境教育・普及啓発

地域貢献



世界湖沼会議での活動発表



スタジオ内のゆいかていとねぎねぎ